

## 講演原稿 作成要領

- 下記により、日本沿岸域学会研究討論会の講演原稿の作成をお願いいたします。
- 執筆にあたっては、「作成例」を参考のうえ、同様の書式となるようにしてください。
- 原稿は、PDF（容量4MB以内、図表等カラーOK）にて提出をお願いします。
- 提出いただいた原稿は、従来の冊子ではなく、CD-Rにまとめます。

### 記

1. 原稿作成には、ワープロをお使い下さい。
2. 原稿作成は、A4サイズ（縦使い）にて、  
左マージン 20mm 右マージン 20mm 上マージン 25mm 下マージン 15mm  
として1ページを完成してください。  
講演原稿の長さは、図・表・写真を含めて2ページ～4ページとします（内容によっては6ページまで可）。
3. 原稿は、研究の背景と目的、研究の内容とその成果、応用範囲と今後の課題などについて、読者に誤解のないように、わかりやすく記述し、要領良くまとめてください。
4. 図・表・写真について
  - (1) 図・表・写真は、周囲の余白も含めて、字数概算で原稿の50%以内を原則とします。
  - (2) 図・表・写真は、鮮明なものを原稿中に張り付けてください。このとき、図・表・写真の表題を含め、左右に文章があるときは、1文字分、上下では1行分の余白を確保してください。
  - (3) 図・表・写真には、必ず表題をつけてください。表題は、図および写真の場合は下に、表の場合は上につけてください。表題の書き方は、「図—1 沿岸域の・・・」などとして、バーや番号は全角文字で記してください。
5. 1ページ目の書き出しは、以下のように統一します。  
1行目 表題：16ポイントを目安として、ゴシック、中央揃えに設定してください。  
2行目 ブランク行（表題が2行にわたるときは、3行目がブランク行になります。）  
3行目～ 著者の氏名および所属：右づめ、1行に最大2名まで。  
(例)  
(正) 山田太郎（××大学○○学部△△学科）、（学）川田次郎（××大学○○学部△△学科）  
(賛) 海田三郎（□□□（株）▽▽▽部）  
次の行 ブランク  
次の行～ 本文
6. 章・節の表示は、作成例にしたがって、左づめで記入してください。
7. 参考文献は他の分野の人にも分かりやすく、作成例にならって原稿の末尾に挿入してください。
8. 接続語などの基本的な記述方法は、作成例の中の表をご参照ください。
9. 不明な点、疑問の点は、日本沿岸域学会事務局 (E-mail [info@jaczs.com](mailto:info@jaczs.com) tel. 03-5408-8295)  
(以 上)

# 沿岸域学会の原稿作成要領に関する研究

(正) 山田太郎 (××大学○○学部△△学科)、(学) 川田次郎 (××大学○○学部△△学科)

## 1. まえがき

近年のワープロの普及により、手書きの講演の原稿は、禁止されるようになっていく。

そこで本研究は、日本沿岸域学会の研究発表討論会の講演原稿の原稿作成について、新たな方法を示すことを目的とする。

## 2. 研究の方法

**2.1 研究の前提** 本研究は、あくまでも原稿の見やすさの改善に目的があるので、表題・著者名などの表記の方法は従来どおりとしている。また、字数も 2000 字/ページを目安としている。

しかしながら、ワープロの機種の違いなどによって、執筆要領どおりに原稿作成が不可能な場合も予想できる。したがって、上下左右のマージンなどは守っていただくとしても、文字数については、おおよその目安とするべきであろう。また段組の検討も含め、今後の改善も予想できる。

**2.2 研究対象機種** 本研究では、対象ワープロを×××とした。最も普及しているワープロソフトであることを考慮して適用したが、近年の他のワープロソフトの改良・改善は著しく、他ソフトにおける汎用性も十分にあると考える。

### 2.3 △△△△△△△△ ×××

×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××

## 3. ○○○○○

×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××  
×××××××××××××××××××

表—1 私の勧める表記法

こう書かずに	こう書こう	こう書かずに	こう書こう
及び	および	と共に	とともに
並びに	ならびに	に拘わらず	にかかわらず
或いは	あるいは	と言うことは	ということとは
乃至	ないし	である事は	であることは
即ち、則ち	すなわち	の様な	のような
但し	ただし	行なう	行う
然し	しかし	表わす	表す
従って	したがって	図中の黒丸は	図中の●印は

## 参考文献

1) 山田太郎・川田次郎, 1992 : 沿岸域学会における原稿執筆要領の特徴と課題、日本沿岸域学会論文集第 5 号、pp1~8

2) Yamada, T. and J.Kawada, 1992 : Wave Forces on Vertical Slit Casson, Proc. 20<sup>th</sup> Coastal Eng. Conf., ASCE, pp51~60